

喫煙の母子の健康におよぼす影響に関する研究

吉田 豊

要約：当科受診患児の約50～70%が受動喫煙環境下にあり，喘息児で73%，乳児で57%が受動喫煙環境下にあった。家族内喫煙者は父親がほとんどであった。受動喫煙に関心を有する家庭は約50～60%にみられたが，その対策については十分とはいいがたかった。

見出し語：受動喫煙， 喘息児， 乳児

研究方法：小児がどの程度の受動喫煙環境下にあるかについて，当科外来受診中の喘息児，一般患児，健康児について，母親より調査表にもとづいて，調査を行なった。

結果：

I. 小児気管支喘息の受動喫煙調査 (1)

1. 調査対象

気管支喘息患児(外来受診中)83例
 受動喫煙有 61例(73%)
 無 22例(26%)

2. 対象年齢

	～3	～6	～9	～12	～15	15～
有群	8	19	18	10	4	2
無群	3	11	6	1		1

3. 喘息発症後の受動喫煙期間(年)

～1	～2	～3	～4	～5	～6
12	12	9	2	8	5
～7	～8	～9	～10	10～	
2	3	2	2	4	

4. 家族内喫煙者

父	母	父母	祖父	祖母	祖父母
37	0	9	3	2	1
父祖父	父祖母	父祖父母	父母祖母		
2	1	1	1	1	

(4)児発症後1か月，1年，3年，7年で禁煙

5. タバコ喫煙本数(日)

	～5	5	10	15	20	25
同室内		10	9	19	3	5
他室		0	1	7	0	2
家以外		1	3	17	6	13
	30	35	40	40～		

同室内	他室	家以外
3	0	2
0	0	0
2	0	4

(パイプ1例)このうち2例は換気扇使用

日本医科大学小児科学教室

(Nippon Medical School Department of Pediatrics)

6. 家族内気道アレルギー患者	無	父母	兄弟	祖父母				
有群	37	22	12	12				
無群	10	4	5	1				
7. 発作回数(年)	~2	~3	~5	~8	~10			
有群	4	13	9	9	4			
無群	1	5	3	6	2			
	~12	12~	不明					
有群	1	8	13					
無群	1	0	4					
8. 患児住居室数	1	2	3	4	5	6	7	
有群	3	7	14	16	5	4	4	
無群	1	3	5	4	2	4	0	
	8	9	9~	不明				
有群	3	1	1	3				
無群	0	0	1	2				
9. 同居者数	3	4	5	6	7	8	9	不明
有群	10	19	19	6	4	0	1	2
無群	3	11	5	2	1	0	0	0
10. 居住地	住宅地	市街地	工業地	不明				
有群	28	22	1	10				
無群	16	4	2	0				
11. 母親喫煙と母乳	母乳	混合	人工	不明				
	5/26	0/14	4/17	4				
小児気管支喘息の受動喫煙調査(2)								
1. 調査対象	気管支喘息患児(外来受診中) 45例							
	受動喫煙有 45例(喫煙家庭のみ対象)							
2. 対象年齢	~3	~6	~9	~12	~15	15~		
	8	5	11	8	9	4		
3. 喘息発症後の受動喫煙期間(年)	~1	~2	~3	~4	~5	~6		
	10	5	2	4	2	5		
	~7	~8	~9	~10	10~			
	1	6	2	1	7			
4. 家族内喫煙者	父	母	父母	祖母	父祖父			
	27	1	8	4	5			
5. タバコ喫煙本数(日)	~5	5	10	15	20	25		
同室	13	4	12	3	6	0		
他室	0	0	6	0	1	0		
家以外	0	1	10	2	12	0		
	30	35	40	40~				
同室	1	0	0	0				
他室	0	1	0	1				
家以外	3	0	1	1				
6. 家族内気道アレルギー患者	無	父母	兄弟	祖父母				
	15	19	9	9				

7. 患児住居室数	1	2	3	4	5	6	
	1	10	17	6	4	4	
	7	8	9	9~			
	0	0	2	1			
8. 受動喫煙の影響についての関心の有無	あり	30					
	なし	15					
9. 関心ありの家族内受動喫煙対策	換気扇	他室	外	窓開け	注意	中止	
	11	4	2	2	5	6	
	注意: 喫煙者に注意はしている						
	中止: 児が乳児期に…… 2						
	児が発病して…… 2						
	動機不明……… 2						
10. 母親喫煙と母乳	母乳	混合	人工	不明			
	4/15	0/13	5/16	0/1			
II. 小児科一般外来の受動喫煙調査							
1. 調査対象	外来対象患児(外来受診中) 148例						
	受動喫煙有 94例(64%)						
	無 54例(36%)						
2. 対象年齢	~1	~3	~6	~9	~12	~15 15~	
有	18	35	25	11	4	1 0	
無	8	19	14	9	4	0 0	
3. 家族内喫煙者	父	母	父母	父母兄	祖父	父祖母	
	72	0	13	1	1	1	
	父祖母	父	その他	その他			
	1	3	2				
4. タバコ喫煙本数(日)	~5	5	10	15	20	25	
同室	18	7	26	8	14	0	
他室	9	5	1	1	3	0	
家以外	0	2	22	9	33	1	
	30	35	40	40~			
同室	3	0	1	1			
他室	0	0	4	0			
家以外	5	0	2	0			
5. 家族内気道アレルギー患者	無	父母	兄弟	祖父母			
有群	56	20	15	8			
無群	27	18	8	8			
6. 患児住居室数	1	2	3	4	5		
有群	0	19	41	21	5		
無群	0	8	22	14	6		
	6	7	8	9	不明		
有群	3	0	0	0	5		
無群	1	1	0	0	2		
7. 同居者数	3	4	5	6	7	8	9
有群	23	48	17	5	1	0	0
無群	11	33	8	1	0	0	1

8. 居住地	住宅地	市街地	工業地	不明		
有群	78	12	1	3		
無群	52	1	1	0		
9. 母親喫煙と母乳	母乳	混合	人工			
2/26	5/37	7/31				
10. 受動喫煙の影響についての関心の有無 (回答51例について)	あり	27				
	なし	24				
11. 関心ありの家族内受動喫煙対策	換気扇	他室	外	窓開け	注意	中止
	10	1	3	1	11	1
	中止：最近中止した(児が乳児のため)					
	受動喫煙なしでの禁煙例：動機不明…2					
	児の出生による…2					
	児が乳児のため…1					
Ⅲ. 小児科乳児健診での受動喫煙調査						
1. 調査対象	対象児(外来)	44例				
	受動喫煙有	25例(57%)				
	無	19例(43%)				
2. 対象月齢	～1	～3	～6			
有	16	5	4			
無	18	0	1			
3. 家族内喫煙者	父	母	父母	父祖父母		
	22	0	2	1		
4. タバコ喫煙本数(日)	～5	5	10	15	20	
同室内	5	3	1	0	1	
他室	3	3	4	1	3	
家以外	0	0	5	2	5	
	25	30	35	40	40～	
同室内	0	1	0	1	0	
他室	0	1	0	0	0	
家以外	1	1	0	1	0	
5. 家族内気道アレルギー患者	無	父母	兄弟	祖父母		
有群	18	6	2	3		
無群	15	4	0	0		
6. 患児住居室数	1	2	3	4	5	6
有群	2	2	13	6	1	0
無群	1	4	6	5	3	0
7. 同居者数	3	4	5	6	7	
有群	13	9	3	0	0	
無群	12	3	3	1	0	
8. 居住地	住宅地	市街地	工業地	農村地	不明	
有群	19	5	0	1	0	
無群	14	3	1	0	1	
9. 母親喫煙と母乳	母乳	混合	人工			
0/6	1/14	1/5				

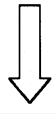
10. 受動喫煙の影響についての関心の有無	あり	15		
	なし	10		
11. 関心ありの家族内受動喫煙対策	換気扇	他室	外	他室と外
	1	5	2	6
	窓開け	注意	中止	
	0	1	0	

考察：

1. 当科受診の小児の約50～70%が受動喫煙下の環境にあり、気道過敏性を有する喘息患児では73%、6カ月以下の乳児でも57%という状況であった。
2. 家族内喫煙者は父親が最も多かったが、父母喫煙や、二世帯同居家族では祖父母の喫煙の影響も考慮すべきである。
3. 同室内喫煙本数は一日10本程度が最も多かったが、なかには小数ながら40本というものもあった。
4. 家族内に気道アレルギー疾患患者の存在を知らながらも受動喫煙の影響に対する考慮の欠如がみられた。
5. 他室喫煙といっても、室数が少ない家庭が多く、我が国の家屋構造からみて同一室内喫煙とほぼ同様と考えなければならない。
6. 受動喫煙の影響について考慮しているものは約50～65%にみられたが、禁煙にいたるものはほとんどみられず、その対策は十分とは言われなかった。
7. 受動喫煙群のうちには、母乳栄養や混合栄養による小児が小数ではあったが認められた。
8. 此の調査によって、受動喫煙の影響について約半数の家族は認識はしているが、その対策は不十分であり、一層の啓蒙、教育が必要である。

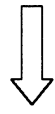
文献：

- 1) 高野陽, 梅原五月, 高城義太郎: 家族の喫煙と幼児の健康。日本総合愛育研究所紀要, 第18集: 59, 198。
- 2) Sohenker, M. B., Samet, J. M., Spelzer, F. E.: Risk factors for childhood respiratory disease. The effect of host factors and home environmental exposures. Am. Rev. Resp. Dis., 128: 1038, 1983.
- 3) Bland, M., Bewley, B. R., Pollard, V.: Effect of children's and parent's smoking on respiratory symptoms. Arch. Dis. Childhood, 53: 100, 1978.
- 4) Bonham, G. S., Wilson, R. W.: Children's health in families with cigarette smokers. Am. J. Public Health, 71: 290, 1981.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:当科受診患児の約 50~70%が受動喫煙環境下にあり,喘息児で 73%,乳児で 57%が受動喫煙環境下にあった。家族内喫煙者は父親がほとんどであった。受動喫煙に関心を有する家庭は約 50~60%にみられたが,その対策については十分とはいいがたかった。